

# 令和4年度 第18回全体庁議（2月2日開催）

区分	審議・報告	案件名 (担当部)	(1) 今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みの在り方 (案) について [政策推進部]
----	-------	--------------	---

## ■ 提案・報告の趣旨

これまでの取り組みの総括や高等教育を取り巻く情勢を踏まえ、今後の十勝・帯広における高等教育の取り組みの在り方(案)を整理したことから、令和5年2月16日の総務委員会に報告するもの。

## ■ 提案・報告の主な内容(概要)

- これまでの取り組みの考え方
  - 人口減少が進む中、地域の強みを活かし、域外から人や投資を呼び込み、稼ぐ力を高め、持続可能なまちづくりを進めていくことが必要となっている。
  - これまで十勝・帯広では、食や農業などの地域特性・優位性を活かし、新たな価値の創出や魅力の発信などに取り組むフード・バレーとかちと高等教育を結びつけ、帯広畜産大学を核とした取り組みを進めながら、地域の活力向上と高等教育周辺環境づくりを進めてきた。
- 取り組みの成果
  - 帯広畜産大学を核に十勝内外の人材や企業、大学との多くの結びつきが生まれ、産業人などの人材育成、企業集積による共同・受託研究や商品・技術開発、地域課題解決に向けた学生主体の取り組みなど、高等教育とまちづくりが連携した取り組みが着実に進み地域の成長に寄与してきた。
- 高等教育を取り巻く情勢
  - 新しい知識・情報・技術があらゆる領域の活動基盤として重要性を増す「知識基盤社会」の時代と言われる中、高等教育機関は社会の負託に応え、社会の側も高等教育機関を支援するという関係性の構築が求められており、地方大学においても産業分野における付加価値向上の取り組みなど、地域の維持発展に向けた役割が求められている。
  - また、複雑化する社会において、その役割を担うため、学生や教員、教育プログラムの運営体制において、多様性と柔軟性の確保が求められている。
  - 一方、18歳人口、大学進学者数は減少が続き、経営環境は厳しさが増してきており、特に地方大学においては、その傾向がより顕著に表れてきている。こうした中、国は大学の経営力強化をはかるため、大学間の連携、統合を推進している。北海道においては、小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学の三大学の経営統合が行われた。
- 今後の取り組みの在り方
  - 【基本的な考え方】
    - 十勝・帯広において、人材が集積し、知の拠点である高等教育は新しい価値を創出する推進力となるものであり、地域と高等教育機関はともに発展していくことが重要である。
  - 【今後の取り組みの在り方】
    - これまでの帯広市が主体となった新たな高等教育機関の設置に向けた取り組みは終了する。
    - 今後は食や農業などの地域特性・優位性を活かした新たな価値の創出に向け、帯広畜産大学を中心に築いてきた高等教育機関とのネットワークを活かし、連携をさらに深め、人材育成や企業支援などに取り組む。
    - 北海道国立大学機構の新たな取り組みを踏まえ、まちづくりの発展の可能性について模索する。
    - まちづくりの各分野における課題の解決に向け、これまで関係性を築いてきた高等教育機関等と連携した取り組みを進める。
  - 【推進体制】
    - とかち高等教育推進まちづくり会議については、今後の在り方を整理したことをもって解散する。
    - 今後の取り組みの検討、推進にあたっては、これまで主体となって進めてきた帯広畜産大学と帯広市の連携協議会、フード・バレーとかち推進協議会などにより、引き続き連携して進めていく。
  - 【帯広市高等教育整備基金条例】
    - 新たな高等教育機関の設置に向けた取り組みの終了に伴い、高等教育整備を目的とした帯広市高等教育整備基金条例を廃止することとし、今後、条例廃止後の財源活用の在り方について検討を進める。

## ■ 今後のスケジュール

- 令和5年2月16日 総務委員会報告

## ■ 審議結果

- 同内容で、2月16日開催の総務委員会へ報告することで了承された。

## ■ その他、指摘事項等

- 特になし